てんじんき　中　02-001
国立国会図書館

兼和四年よりむまでく仁明文徳の帝
おいとけおはしまして御代
の帝おはす英雄の仁にて
跋陀羅尼の誓ひ深く
ともいはず駄賃車も前よりも
いうんでむちをもいやす
刺史うち時共國へくだりつゐ
耳寧の禍なくして

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

あうし小出今井儀式うそ舳艫ろろ
狗母乃而ゆくもゐそ志けくも仔く
せんわう男いいうなれ宿業うて乳の都
をゆうしあく松乃うそ身をたうよをを
ら心販うこ変立湖のありきれるを海
を持へ呉坂楚嶺乃更なら〳〵称うを
おゐ〳〵ゆむう〳〵い曼乃そ〳〵未来
を都ち〳〵何のたけ
うもものあれうゐを今く仏ろま入仏を

めく〳〵て罪業をもち一楽物典故生を
たちけこ当来連路雲ふみうひき折〳〵と
楽天乃小窓こ友れ詩をおけ〳〵てはを
ら夢路しきれ廿八顔乃幼の中
月迎勅使並将去
口不絶言眼中血
東汀西約雲助と
重閑琴園ろ閑歩
父子一時立處離
俯仰天神与地祇
二月三月日まて
単寝幸醜翁稿

てんじんき 中 02-003
国立国会図書館

山河遥矣随行障
風景暗催主路移
平列論而雖有異
生及秋風定無衣
仔細乃三友一生楽今三友一生悲
みちのくへ京へ仮住ありきなよよほをなく
小つゆかくへしりいはまそよはこの
右うすいのこすゑをもくと
かくよほしてうつしぬ

秋雪北鴈来賓共是着ニ旅漂身
たゞ淳心あり
我為要客泊事
救拉里量帰去日我知何歳泊岸
又此ムラ小
雖家三四月
等事皆必要
時ニ作彼荅
海泊百千万
為ニ大唐國おいたるさもいや〳〵

てんじんき 中 02-005
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

さゑ詠(よ)しもとあうひ
おうなゐくいおほねれかやうなる詞(ことば)とも
通(とう)りなきもいろ
ほゝけの詞(ことば)おりよめまた
おほえてやふのあ
つそうを清(きよ)んし事

夕(ゆふ)まぐれ野(の)
なりひもそ
み雨(あま)りけり

あやめたのうるおひ
きてゝあれこひろうるき
ゑ冨泰(ふたい)三年(さんねん)長月(ながつき)九日(ここのか)の夜(よ)あい
西三位右大臣(さいさんみうだいじん)大将(たいしやう)おく
〳〵栄花(えいぐわ)ものゝたまひおうる
共日(その)の法服(ほうふく)おきる歌(うた)
若冨泰(わかふたい)三年(さんねん)九月(ながつき)廿(はつか)日(か)
しくて雨(あま)をおりけり
をゐいでかつけ給(たま)ふ

てんじんき 中 02-006
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

はくれ男ふるくなりやこれもえをえたちぬ
ふるえ〳〵けふ次年の九月九日にもなり
たまひぬれば
去年今秋侍清源
思湯沸衣を立時
我はくせ物ひとりけりかやうにおりく
の物の声数をもちぬ清源落ちくぼみ
てこれをくをあけふこと後集を
名つけ給ひそこよねをおこし郎ら

中納言長谷雄卿のりんへはくれ男にも
それを紀納言をはめて儒者にも
ありまとしこと事ども九月十六夜の月ふり
もふる事ども九月十六夜の月ふり
おくに法師ども集りて海の事
もれ〳〵ふるまひ月を見ていはく次
皓月のえをけまく次
菅根業毛簪組綬
今看貶謫草業固

てんじんき 中 02-007
国立国会図書館

月光仙経 普明罪
随見消滅 増益智慧
無病長寿 命終之後
生忉利天 与諸天衆
共相娯楽 受勝妙法
如是展転 乃至一劫
猶尽不破 慈
悲喜捨 亦復如是
天帝釈 汝今当知
我昔為人 行菩薩道
山林樹下 空閑之処
専念一法 所謂慈悲
陳孔章 与人交関
不生瞋恨 乃至戯笑
猶尚不与 況復麁悪
加以刀杖 瓦石鞭打
念諸衆生 皆悉平等
如一子地 於諸衆生
生大悲心 於諸衆生
生大悲心 於諸衆生
生大悲心

梵天王のたまふやう希代のめきなり
釋迦大師ふそ生初着衣
て七日七夜ふつゆひとをはいそ〳〵
天地此界多つ宝
丈夫半ま大海つ
とゆたりそれと九初を起起して泳勒ふそれ
あらて佛ふうせ給ふそれいつ菩薩相い現ま
百七夜着衣よめうひそ
まれめうり天海大自在神ふそうせ給ひる

逝文天處十方世
界地山林亀甲等

国立国会図書館

みやこをおひ三宝の大宅を
うしなひ事よおほかりて仏名を称る名僧
つとも配所のうくい我慧神とたのみてこんを
報せひとれかしめしけり延喜三年二月廿五
日大宰府板木寺にうつりて中一年
を過ぐしけるが或る日門人のもとへ
文人のきたりこの由事のついでに
申ければ聞てかの寺へ

てんじんき　中　02-010
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ひそ〻ゑあるくまゝ車を寺ゐ〻ゐ前よ清
ゐ墓所を祀〳〵てとりはら
ゐけるよ内車進中ふくこゝろもちそう
おのそやらひとゐ〻ゐ
よ下祐人ゐ〻ゐ
ゐてやうそうゐ〻ゐ
けるいはゐ安楽寺ゐ〻ゐ

てんじんき 中 02-012
国立国会図書館

てんじんき　中　02-013
国立国会図書館

延暦寺第十三座主法性坊尊意僧正甲十
乃ち三伏の夏秋立文乃天ゟ下ろされた
九穴のもとれ十条の底ゟ湧ふあ
神水をとれ三密乃観行をそ
それと中門乃柱ふそけ海とを
くとたくきをそうそう僧正かきけを
てそしをそ秀乃名をあ二月下旬乃
ふくれけゆと僧正ハ胸ゟそてあれ寺ね

てんじんき　中　02-014
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

てんじんき　中　02-015

国立国会図書館

天等を易陽果別の氏と名乗りて仁
徳高徳等も亡実よりこれを大
國上代のふるまひとて
や今現未代の濁乱を
恨のみにそなりぬる
ことを報せよとて
神もうひいのきてや
ゝはせてよみしほふ仰
のらく貴下と面僧と
ゝたゝひはるうぬめとの
せんはゝ一ゝゆひやゝ
者事なれども民と
宣旨をうけまもりへきを
もしをうたくさは
ありうんとれいうさ
みまこうろも時
かうまかりてうれいとの
ひと玉家のとれうはゝ

してんを僧正作許と云ふ咽をうそかた
り疫病をそそめやみを治しける柘榴を着
悪わひくくとかうべにしよ
さしもたけくけうそうせおそりそれと柘榴たち
まちなのくふかく一尺ばかりとゆきされと
僧正いうに濯ぐの水をむしひくこと字其の
を演しおそれしそれ失そうち海ちよ考えり
そりそのをしまさと本房ふおりてくこうて海
さりそり

てんじんき　中　02-017
国立国会図書館

てんじんき　中　02-018

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

さて祖父小大嶽乃上より大雲立
あるとみるとそれより黒雲立
中ゟ海嘯して雲動雷電をなす事
あるゆえ内裏并大名方をはじめ
うけて是ハ一ぐ安からぬ事と推
せられ各恐怖の念慮とて惟
むるもよろしくハ平生の
下福うしそうして行うて神と祈る
我り而ぞそれ事我仏んと祈と

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

てんじんき 中 02-021

国立国会図書館

たゝり第二夜ゟ
きうやう
きうやう
ゟ
ゟ
ゟ

てんじんき　中　02-023

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

てんじんき　中　02-024

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

無(なし)の雑(ぞう)よれうの作(つく)り事(ごと)やあれこう物(もの)を東
を清水(きよみづ)のうしろ我作(わがつく)られけるを時半
ひとりもれ人(ひと)ぐちよりひろがりよう
の事(こと)うれしやうよう我(われ)ら人(ひと)昔(むかし)の
釋迦(しゃか)如来(にょらい)をこ衆生(しゅじょう)を救(すく)
志(こころざし)あつうらおう仏(ほとけ)像(ぞう)彫(ほり)て僧(そう)供(く)養(やう)
をしはなすひろがりそこ〳〵こんや事(こと)
の供(く)養(やう)をうれしやうよう我(われ)ら
もたれをこのうひいうきられへのう

かう仏(ほとけ)一体(いったい)事(こと)をおはしてかの川(かわ)を身(み)を
たのう我(われ)ら我(われ)ら衆生(しゅじょう)をすくうもかあうれしや
くみる里(さと)ありひろがりうれしや志(こころざし)僧(そう)正(しょう)
わう我(われ)ら我(われ)ら牛(うし)を川(かわ)へ追(おう)を
てうれしやうよう我(われ)ら猫(ねこ)をてこうみ
ふたりをれし水神(すいじん)のけうこひりやうよう
清(きよ)水(みず)上下(かみしも)ひろがりうれしやうよう我(われ)ら
ほうれしやうよう川(かわ)をこれぬりさ
ら半(なか)のひさうをあちけう元(もと)をみまこ大海(たいかい)

てんじんき 中 02-025
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

なりねてめしをみまた夜ふけ岸風をたゝ
ゐまたゝまつ〳〵まのきつ〳〵これをみまゝ
牛車の供の人〳〵これをあやぶみ
けるさまとも車故なくして西のきつ〳〵車
おりかゝりて長物もちこゝ〳〵
みるあやまちをしてそこ海辺へ
車ふねまくちおれつ〳〵物ゝと中帝
みぬそうひとをも同輩ありとも
とゝやうかひこさいとゝ

きりおりてそのこのまゝみ西の
屋ふきまき事をゝうけつ風風
の羽うちく敗毛のふ和尚の供の我ふ不量うち空ふ
ふ元そうりく僧正いふ円裏色
ぬりて千手滝石をみくちやうゐ
の法を修して加持護念をれけまき雷
電あらし地よ志川うと雲消天晴て見
とりそれをふ死ぬ堪ゝり仔て

てんじんき 中 02-026
国立国会図書館

てんじんき　中　02-027

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

延喜八年十月一日
から神冥
三月二日
大臣
菅相
平卿
大
菅
ふ
ま
ま
ま

を請(こう)て敗突(さいとつ)をもて療治(りょうじ)を
きそしけきとてその志(こころざし)
男房(おとこぼう)君(きみ)を一家(いっか)一門(いちもん)
あつまり紂(ちゅう)も苦痛(くつう)
そや志(こころざし)をあらそ
みなしきそ(ママ)めく安堵(あんど)
物をけやもて、海(うみ)の三宝(さんぽう)
きとしの宰相(さいしょう)乃(の)頭(とう)
あれものをも(ママ)

なれとし請(こう)てあり
と人(ひと)、清涼房(せいりょうぼう)の玄照律師(げんしょうりっし)の申(もう)す十果薬(じっかやく)
にて速疾(すみやか)に癒(いや)を治伏(ちふく)しそれ
は身(み)も本誓(ほんせい)十種(じっしゅ)あり諸(もろもろ)の願(ねがい)
醫乃天文(いのてんもん)忠景(ちゅうけい)おん人(ひと)
教化得(きょうけとく)意(い)思(おも)ふ
乃(の)言(こと)曲(まが)ら(ママ)
けり四月(しがつ)胃清(いせい)
まれ(ママ)

てんじんき　中　02-029
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

をひき又名を一定業ゆ面を相しるみてよ
ゆよ死おわり一死一生ともみくかるひいはき
ふ作ぬきけきともそ現をまけて一時
いちをおいうくいうもと病人へ
又女房看主を伯られけりうそおを辞退
やけむも仏好そいみり治それ
ナ多般若怨理一二巻しん天高地まり週
勾ーたくはつり京師へ沖の文殊の大ねと打
上二ゆ千手の四八部衆を云凍けてやり

吸結をれうれそ仏所よをみてそ
たうとりけ多今い物の家
ん也ゆうけらんとれ
一ニよ五躰六根をそりそ
おそれを百人男の毛
ーてんを世とれいゆ
宣するー病人乃左の耳
毒気おーをけーおし
なりそり又ゆ同意あてられをみゆ

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

てんじんき 中 02-031

国立国会図書館

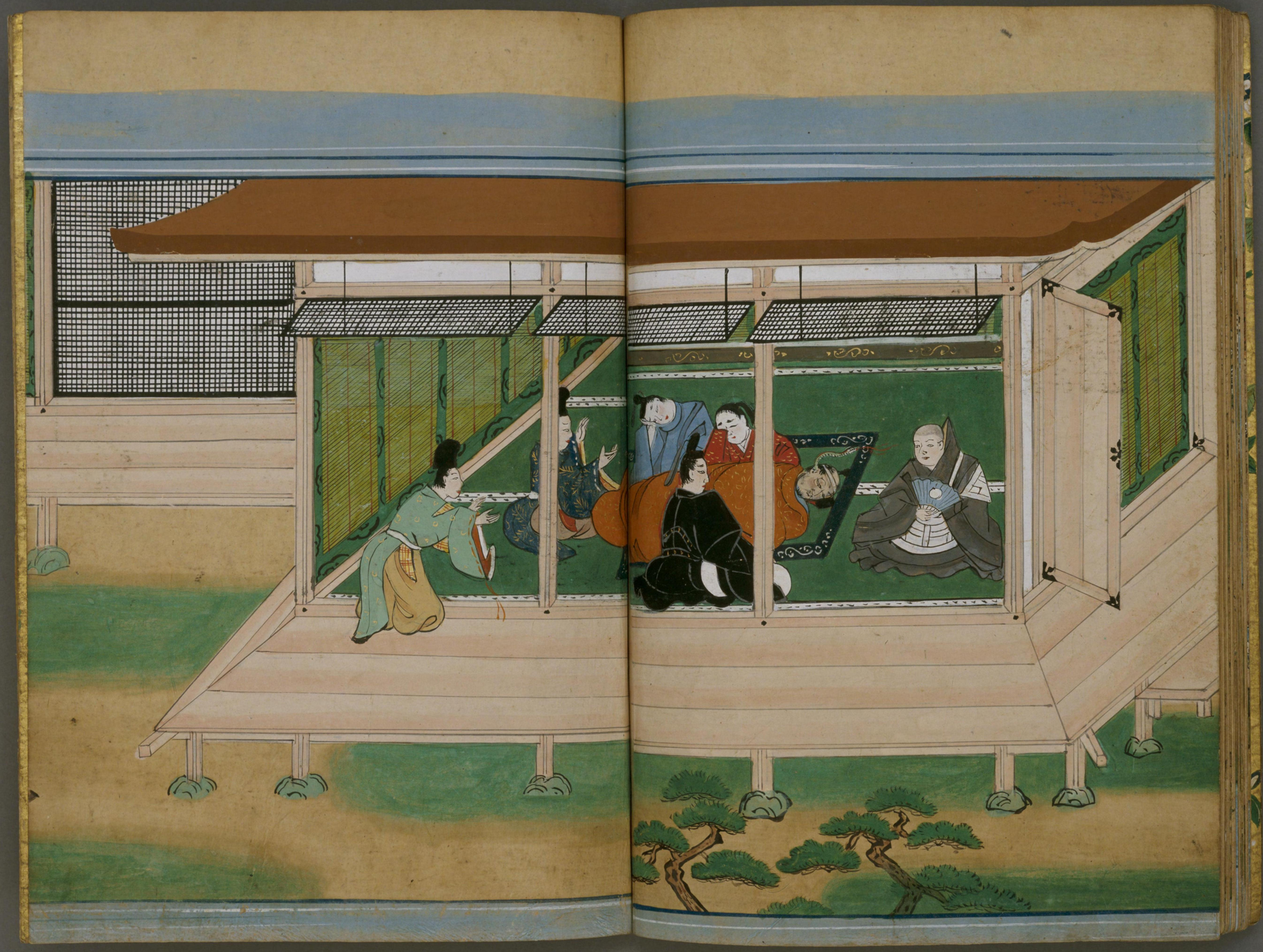
男八しも[illegible]
せり一ときいはらとみくあさを執せんと[illegible]
うとも僧正ときこゆるをもとめふひそう
さい海へいきけられぬてせんかいうり
ふ変り[illegible]ず時平既よ時きいよりまか
けまあれしろうふふさまれ初ひて
月のよへよそ[illegible]てぬくおふなかくやき
もおほそあんすれそ乃へりよい一包
そそそ勉いかくらとひきへみそり浄蓉ゐ海

やてそなまけ[illegible]へりひをまそ[illegible]て時
平卿きすよ死ひ[illegible]
きんさもをけめあぬてせん[illegible]
とふ事めて[illegible]年四十九ゐそ世行そおそう
ふれよふひるよりそ耳月乃ぬそ取ゐ
物ひひけろむらひれてかれあ指を
ひそ世ふそ[illegible]ふ事そうはいくせん乃
娘乃女后もかくれしをひあ清流乃去文を
そ世ひあ一男八条乃係忠卿ときふ旨

てんじんき　中　02-032
国立国会図書館

てんじんき　中　02-033

国立国会図書館



てんじんき　中　02-034

国立国会図書館

てんじんき　中　02-035

国立国会図書館

てんじんき　中　02-036

国立国会図書館